

特定技能外国人材制度に関する鉄鋼業界の要望

<はじめに>

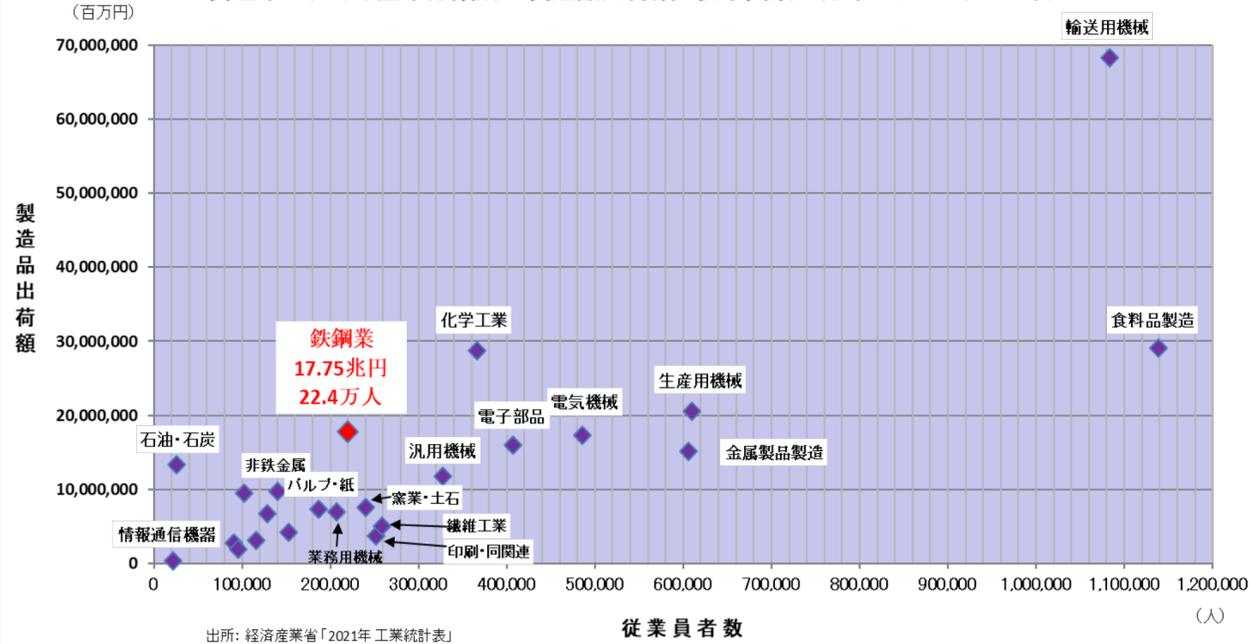
- ・特定技能外国人材制度は、国内人材を確保することが困難な状況にある産業分野において、一定の専門性・技能を有する外国人を受け入れることを目的とする制度として、2018年に可決・成立した改正出入国管理法により、在留資格「特定技能」が創設され、2019年4月より施行され、以降一部運用改正を含め今日に至っている。
- ・その対象となる特定産業分野については、創設当初は14業種であったが、2022年4月に同制度運用に関する一部改正が行われ、「素形材産業分野」、「産業機械製造業分野」及び「電気・電子情報関連産業分野」の3分野が制度運用の実態等を踏まえ、「素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野」へと統合された結果、現行では12業種となっている。
- ・しかし、鉄鋼業については特定産業分野である12業種のなかには対象化されていない状況であるため、今般、「鉄鋼業」について特定技能外国人材制度の対象産業分野に追加頂くことを要望することとし、別途資料に基づき要望理由・要望内容をご説明したい。

(※資料本編をご参照下さい)

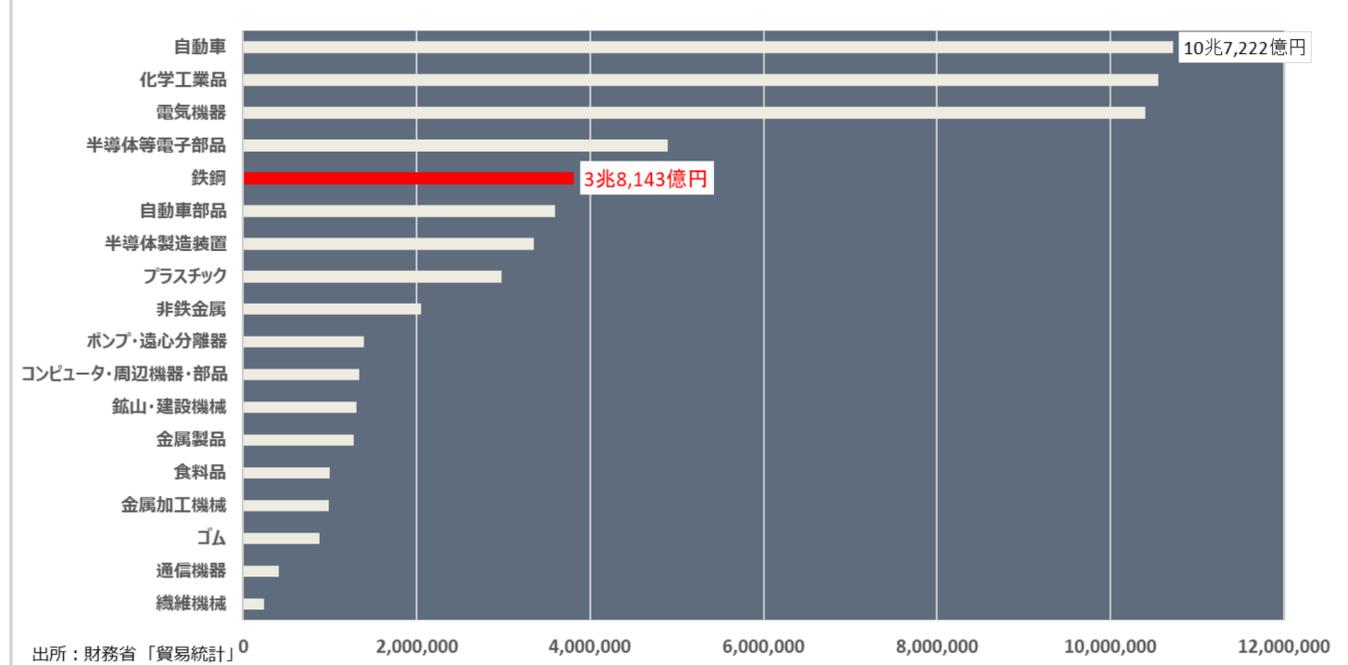
鉄鋼は自動車、産業機械、電気機械、造船等、幅広い産業で利用されており、またビルや集合住宅などの建築物のほか、公共施設、道路、鉄道、橋梁、港湾、河川・護岸等、社会インフラ整備においても欠かせない基幹的素材としての重要な役割を担っている。

参考情報

製造業における産業分類別の製造品出荷額と従業員数の分布チャート（2019年）



日本の主要品目別輸出金額（2021年）



～鉄鋼（鋼材）の用途～



その製造プロセスでは、原料調達・加工から製鋼・圧延等の各生産工程のほか、精整・梱包・運搬・出荷等、様々な技能作業があり、大手高炉メーカーをはじめ鉄鋼業界では、製造拠点のある各事業場等においてグループ会社のほか、協力会社が現場での様々な技能作業を担っている。

鉄鋼の製造現場等において、主に協力会社の労働者が担っている具体的な技能作業としては、大きく5点ほどあり、

- ①製鉄所の原料ヤードにおける鉄鉱石等のコンベアによる運搬時での作業、
- ②製鉄所構内でのクレーンやトラック車両等の操作・運転作業、
- ③鉄鋼の製品を梱包する作業、
- ④鉄鋼業では高炉会社には転炉、コークス炉等の設備があり、こうした設備に付随する作業として、同設備内にある耐火物という煉瓦のような材質の維持・補修・解体作業、
- ⑤製鉄所内にある機械設備の補修のほか、精整ラインと呼ばれる仕上げ工程での作業や、溶接作業など

以上が挙げられる。

(1) 環境維持・改善（清掃）作業

- 1 原料ヤード等ベルトコンベア 近傍粉塵改善作業
 - ① 落鉱関連作業
原料ベルトコンベア周辺でのコンベアから落下した鉱石、石炭の回収作業等
- 2 その他
 - ① コークス炉回りの上昇管手入れ作業、加熱炉スケール上げ作業、資材品運搬等
 - ② 清掃（循環タンク、事務所）
 - ③ 警備

(2) 構内・外物流作業

- 1) クレーン運転等作業
 - ① 建屋内クレーン運転作業
 - ② 岸壁クレーンによる出荷作業
- 2) 車両運転作業
 - ① トラック等運転：大型トラック、トレーラー等による原料・製品輸送
 - ② 軌条車運転：ディーゼル機関車による溶銑運搬作業等
 - ③ キャリアパレット車；製品の岸壁出荷作業等
- 3) 船内荷役作業
 - ① 原料本船・製品本船での船内での荷役作業

(3) 工業梱包作業

- 1) 梱包作業
 - ① コイル（帯鋼）梱包ライン運転・付帯作業
 - ② コイル梱包（土間梱包）

(4) 築炉関連作業

- 1) トビードカー炉体補修
- 2) 転炉・溶鋼鍋・溶銑鍋・混銑車等の溶損した耐火物の補修
 - ① 転炉煉瓦補修
 - ② 鍋煉瓦補修
 - ③ 溶銑車煉瓦補修
 - ④ 転炉出鋼孔 煉瓦解体工事
 - ⑤ 転炉及び鍋煉瓦解体工事等
- 3) コークス炉炉体補修
 - ① コークス炉溶射補修工事等

(5) 機械補修作業等

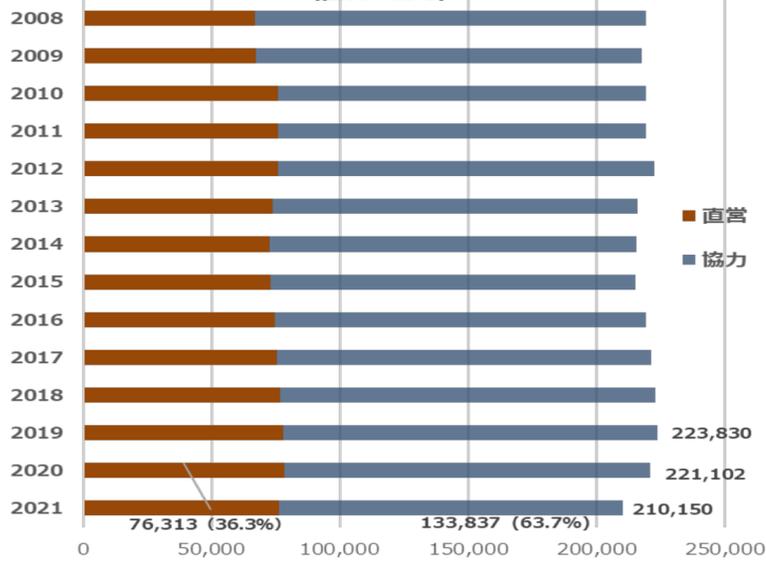
- 1) 機械補修
 - ① 各種製鉄所設備の組立作業
 - ② 製缶・配管・溶接補修作業
 - ③ 仕上工程作業（精整ライン等）
- 2) 溶接作業

現在、**国内の鉄鋼業界に従事する労働者約21万人のうち、協力会社の労働者は約14万人と全体の約6割強**を占めている。総じて中小企業の形態を中心とする協力会社においては、製鉄所が所在する各地域・地方における経済状況、景況感等による労働需給の影響など、**新規の採用で定員を充足できない状態**が続いており、**設備更新**や、**AI/IoT等を活用した省力化・効率化などの生産性向上**、**重労働作業の機械化や国内人材の確保のための取り組み**を行っても、**なお必要な人材を十分に確保することが困難な状況**にある。協力会社の人材不足は製鉄所の上工程、下工程を含めた**製造プロセス全体の遂行において、現場における操業ボトルネック**など、**鉄鋼生産全体に大きな影響**を生じさせ、結果的に**鉄鋼のサプライチェーンの円滑な維持・発展や各鉄鋼需要産業への適切な供給責任**という面から、**大きなリスク要因を惹起させる恐れ**があることから、**協力会社における安定的な人材確保は、鉄鋼業界全体にとって喫緊かつ重要な経営課題**となっている。

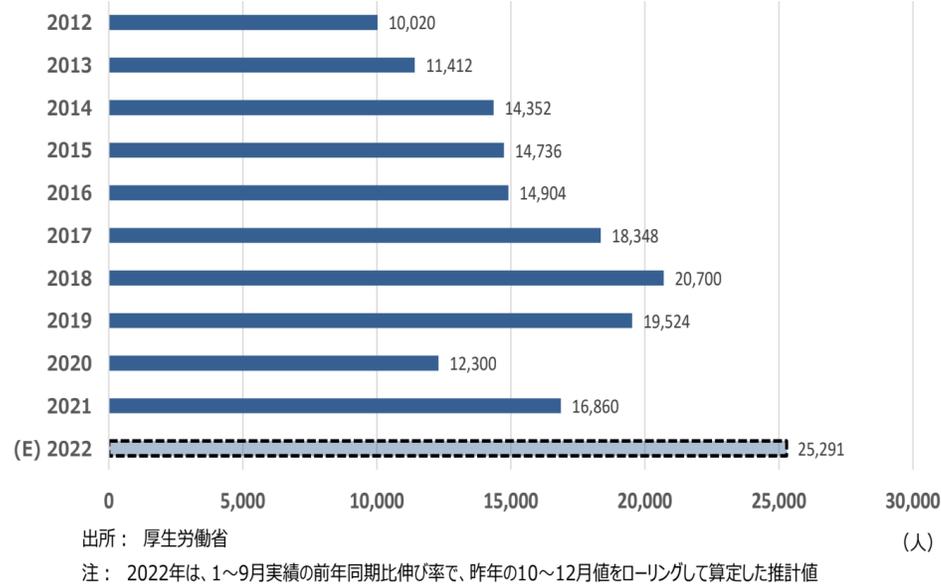


参考情報

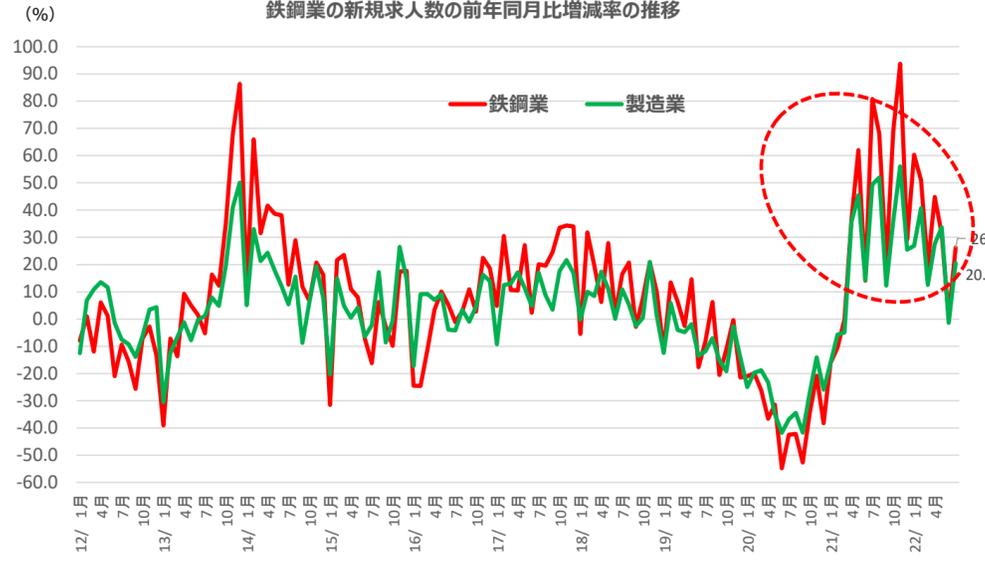
鉄鋼業の労働者数の推移
(直営+協力)



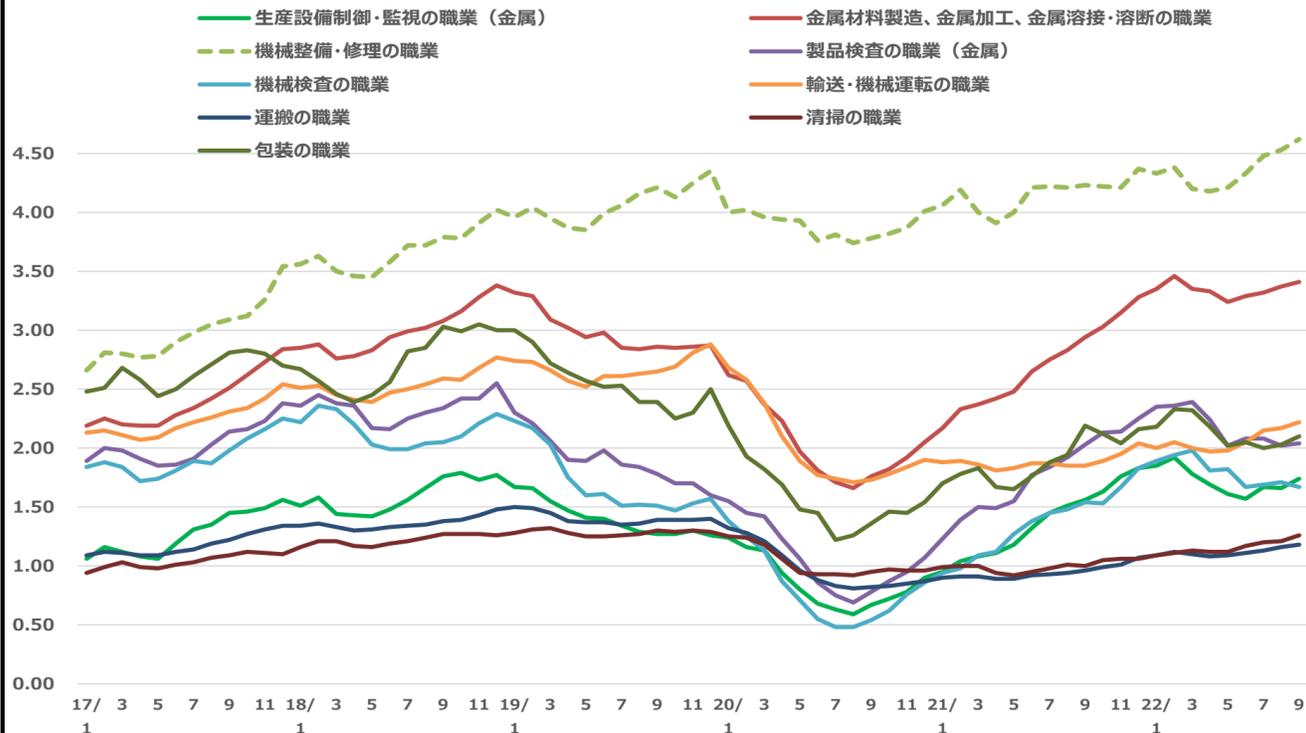
鉄鋼業の新規求人数の推移



鉄鋼業の新規求人数の前年同月比増減率の推移



鉄鋼業に関連した職種別の有効求人倍率の月次推移



鉄鋼業における生産性向上や国内人材の確保のための取り組み

(1)国内人材(女性、高齢者等)の確保のための取組について

①団体(鉄鋼連盟)としての取り組み	
	政府による女性、高齢者等の確保に関する政策方針や関連する情報を随時入手、会員企業に情報提供を実施することにより、人材確保のためのサポート的役割を担っている。
②企業別取り組み	
A社	<ul style="list-style-type: none"> 女性技能職の採用・定着強化のため、インフラ整備(保育所・職場環境[休憩所、更衣室等])を継続実施中。 高齢者雇用については、定年年齢を65歳へ引き上げ済み。
B社	<ul style="list-style-type: none"> 現業職でも採用数の10%以上を女性採用とする目標を掲げて2012年以降積極的な女性採用を推進。 現業女性社員用のトイレ・シャワーといったインフラ整備も継続的に実施。 企業内保育所の設置、保育所の開園 時間延長などの取り組みにより仕事と育児の両立支援を図り、ライフイベントを経た女性社員のみならず男女を問わず育児世代社員の定着を推進。 高齢者の活用も最大限に推進しており、これまでの継続雇用制度による60歳以上社員の活用に加え、2021年度からは65歳への定年延長も実施。

(2)生産性向上の取組について

①団体(鉄鋼連盟)としての取り組み	
	製鉄所など鉄鋼の製造現場にIoT(モノのインターネット化)やAI(人工知能)といったデジタル技術導入の促進等を図るため、2020年以降、鉄連事務局内に、ドローンに関する規制緩和等、業界共通の課題を抽出し、会員企業へのサポート的な役割を担う組織を発足させ、取組みを継続
②企業別取り組み	
A社	蓄積された各種データを統合集約することで、迅速で高度な意思決定・課題解決が進むようデータプラットフォームを整備するとともに、これらのデータを使いこなすDX人材の育成を促進中。
B社	労働生産性向上を中期経営計画の重要テーマに掲げ、全社で労働生産性向上に取り組んでいる。DxやAIといった先進技術による設備の自動化、業務支援機能の拡充などにより必要人員の削減や技能習得の早期化を図っている。外注化領域においても、同様のアプローチで生産性向上に加え、3K作業の削減に取り組んでいる。

ここまでのまとめ

- 鋼材は社会インフラの基礎素材として建設業向けのほか、自動車等、製造業等全般においても母材としての重要な供給役割を果たしているなど、鉄鋼業は素材産業として、裾野の広い様々な需要産業へのサプライチェーン機能としても重要な役割を担っている。
- そうしたなか鉄鋼業界では、原料調達・加工から製鋼・圧延等の各生産工程のほか、鋼材製品としての加工・精整・検査、梱包・出荷・運搬等の各作業に加えて、設備・機械等の補修工事など、構内・外での様々な技能作業があり、そうした作業では主に協力会社による外注作業としての人材確保による安定操業の維持が現在ではもとより今後も鉄鋼業界として喫緊の対応すべき重要課題となっている。



かかる状況を踏まえ、鉄鋼業界として、**特定技能外国人材制度に定める特定産業分野として「鉄鋼業」を追加対象化して頂くことを喫緊の要望**として掲げており、これにより、鉄鋼業界の安定的な人材確保を通じ、円滑な生産活動の維持、裾野の広範な鉄鋼の需要産業へのサプライチェーンに関しての円滑、確実な供給責任の確保など、当業界の持続的成長に著しく寄与するものと強く要望するところである。

むすび（外国人材にとってのメリット）

- ・日本の鉄鋼業は自動車用の高強度・軽量・高加工性のハイテンと呼ばれる鋼材や、EVのモーターの母材となる電磁鋼板など、**世界でも高付加価値な鉄鋼を生産**しており、また、国際的な脱炭素化社会の実現に向けて、**CO2ゼロの鋼材開発への取り組みを加速させているモノづくりの中核となる産業**。このため、**日本鉄鋼業でのみ得られる高い技能作業の集積**もある。
- ・外国人材には操業や加工等の工程で高い技能や能力を身に付けてもらい、**高度な実務経験**を得た上で、**帰国後に自国でのモノづくり等の様々な現場で、大いに活躍して頂けるものと認識**している。

以上